

安曇野市教育委員会文化課と連携し、市民参加ワークショップにより『安曇野ふるさと遺産』の考え方をまとめ、選定しました。

2018年8月8日 **27名**
安曇野市役所
・安曇野市の文化的資源の保存・活用の課題と解決策を議論

2018年9月5日 **18名**
穂高会館
・安曇野市の指定文化財の特徴・種類を学習
・文化財指定のない資源で継承の必要性の高い候補を列挙・整理

2018年10月17日 **13名**
穂高支所大会議室
・第2回までの議論をもとにふるさと遺産の概念を整理
・候補を9つ整理し、その価値や物語の構成要素を整理

2019年1月15日 **20名**
穂高支所大会議室
・候補の絞り込みの議論
・絞り込んだ候補の構成要素、価値、背景の物語等を出し合い、特徴を把握

安曇野ふるさと遺産



安曇野屋敷林フォーラム2019

『安曇野ふるさと遺産』の取り組みは、安曇野屋敷林フォーラムで報告すると共に、認定エリアで活動する市民団体と、今後の連携に向けた協定書を取り交わしました。



安曇野ふるさと遺産

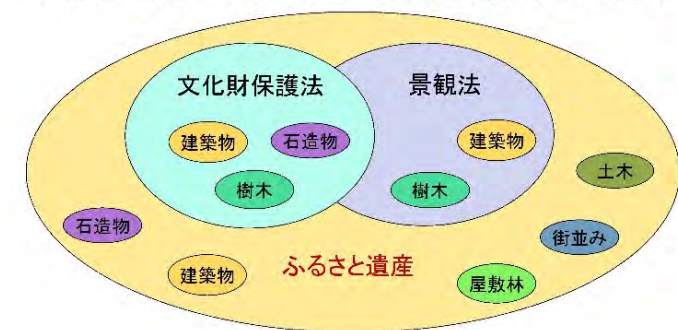
安曇野ふるさと遺産とは？

安曇野には法に基づく文化財には指定されていないものの、「暮らし」に根付いて脈々と受け継がれてきた文化をを継承する文化的資源（歴史文化景観遺産）がたくさんあります。NPO法人安曇野ふるさと応援団では、2007年から開催している「ふるさとウォッチング」を通して、地域の歴史文化景観遺産の再発見に努めてきました。「安曇野ふるさと遺産」とは、失われつつあるこうした歴史文化景観遺産をNPO法人安曇野ふるさと応援団が認定し、協働で継承していく新たなしくみです。

「安曇野ふるさと遺産」の認定により、認定エリアで景観育成活動を行っている市民団体と協定を締結し、長野県安曇野市・地域住民等とも連携して、調査研究・保全活用・広報啓発等を行っていきます。

安曇野ふるさと遺産～協働のしくみづくり

◆目的 失われつつある安曇野の文化遺産の継承～法的な保全活用への第一歩として～
法的な保全活用へ向けての第一歩としての『ふるさと遺産』



着眼点

＜市内の文化的資源の課題と解決策＞

・安曇野市の文化的資源を今後継承するために必要な5つの要素

人材・つながり 情報発信
資金・財源 活用例・活用策
法制度

＜文化財指定や登録のない資源の特徴と継承の方法＞

・姿形を変えながら今も息づく「現役」の要素であることが多い。
・現役の要素も含めて、複数の文化的資源の組み合わせとして維持継承することの重要性
・組み合わせから見出される価値・ストーリーの重要性

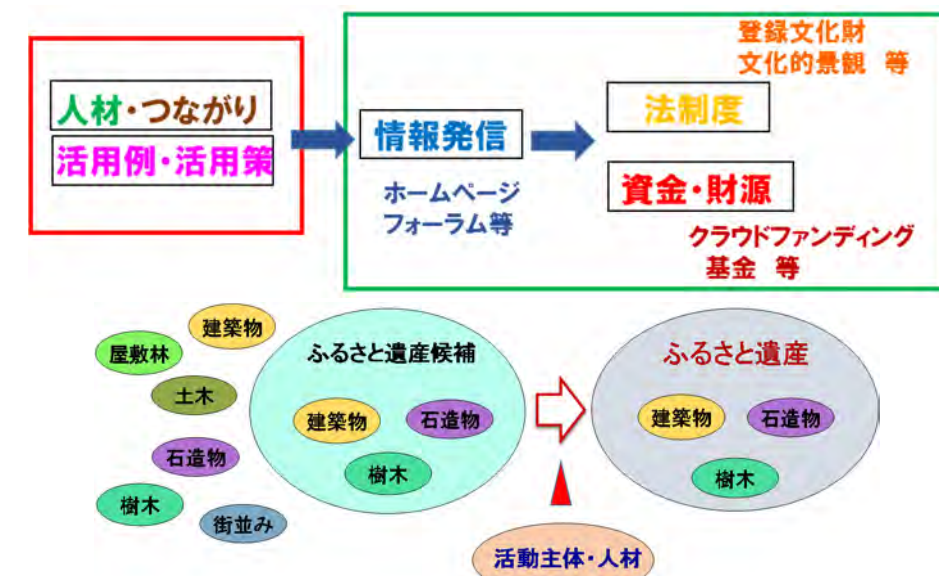
このような状況を踏まえ、安曇野流の文化的資源を継承するためのしくみとするべく「安曇野ふるさと遺産」の取り組みの展開を具体化しました。

取り組み概念図

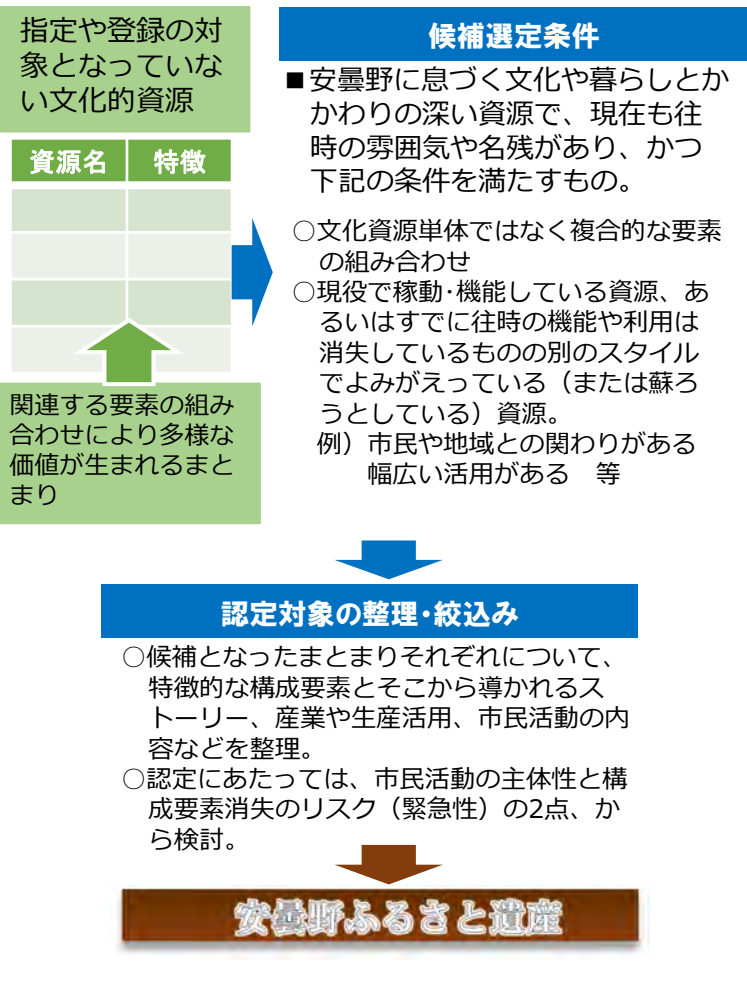
安曇野らしい多様な要素を含む文化資源のまとまりを「ふるさと遺産」候補として抽出。

すでに活用主体や人材があり、『新たな視点で価値付け』をすることで効果的な情報発信へ。

ふるさと遺産としての価値を新たに発信することで、新たな制度構築や資金確保の取り組みにつなげていく



活動主体のある文化財群を『ふるさと遺産』として認定支援



安曇野ふるさと遺産 2020年度の活動

2020年度ふるさと遺産の選定

視察研修
2020年6月1日
南木曾町
中山道妻籠宿



9月～12月
屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト(3回)
屋敷林を念頭に認定候補エリアの検討

第1回 ワークショップ
2020年12月22日
穂高支所大会議室
過年度選定の候補と今年度選定の候補(屋敷林・屋敷林以外)を列挙し相互比較するワークショップを開催。



第2回 ワークショップ
2021年1月13日
豊科交流学習センター
第1回のまとめをもとに有力候補エリアを選定し、名称、特性や構成要素、物語性について詳細に議論。

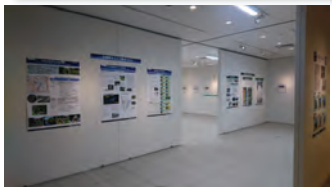


屋敷林フォーラム2021・パネル展

安曇野ふるさと遺産の取り組みは「安曇野屋敷林フォーラム2021」で報告(無観客開催・地元CATVにて放映)。
2020年度認定エリア活動団体と協定を締結。



フォーラム会場で約3週間、パネル展示による取り組み成果を発信。その他国営アルプスあづみの公園あづみの学校内に展示。



2019年度 認定エリアでの活動

2019-1 天蚕の恵みと新屋の屋敷林
協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

天蚕の生産で発展した歴史の名残や重要文化財曾根原家住宅などが残る新屋地区。地区内のガイドウォーク「ふるさとさんぽ」を開催するとともに、曾根原家住宅での落ち葉拾いボランティアを実施。

【連携・支援活動2020】
ふるさとさんぽ
落ち葉拾いボランティア 等



安曇野ふるさと遺産 2019年度の活動

2019年度ふるさと遺産の選定

視察研修
2019年9月17日
飯山市 小菅の里



9月～11月
屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト(3回)
屋敷林を念頭に認定候補4エリアを抽出

第1回ワークショップ
2019年12月10日
豊科公民館
過年度選定の候補と今年度選定の候補(屋敷林・屋敷林以外)を列挙し相互比較するワークショップを開催。



第2回ワークショップ
2020年1月14日
穂高支所大会議室
第1回のまとめをもとに有力候補2エリアを選定。それぞれの特性や構成要素、物語性について詳細に議論。



屋敷林フォーラム2020・パネル展



『安曇野ふるさと遺産』の取り組みは「安曇野屋敷林フォーラム2020」(穂高交流学習センターみらい: 92名参加)にて報告し、認定エリアで活動する2つの市民団体との連携に向けた協定を締結。



2020年2月

フォーラム会場で約2週間にわたるパネル展により、取り組み成果を発信。さらに続けて国営公園、市役所でリレー展示を展開。



2018-1 長尾・野沢の田園集落と屋敷林
協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

蚕種の生産で発展した歴史の名残を伝える野沢地区を主な対象として「ふるさとウォッチング」を開催。信州大学の建物調査等にも関与、秋には「落ち葉拾いボランティア」も実施。

【連携・支援活動】
第28回ふるさとウォッチング
民家調査
ふるさとさんぽ2019秋
落ち葉拾いボランティア 等



2018-2 潮沢の交通遺産と東山集落の暮らし
協定団体：潮沢ロマンの会

岩州の里山を主なフィールドとして、「さとやまさんぽ」を開催。また、散策環境を紹介する現地案内板作成にも協力。

【連携・支援活動】
岩州公園案内板更新
さとやまさんぽ2019秋
ココブラ廃線敷 等



2018-3 千国街道・穂高のまちなみ
協定団体：安曇野まちなかにぎわいプロジェクト

旧保高宿周辺を舞台にした各種まちづくりのイベントや取り組みに協力。現地をフィールドとして利用した「案内人の教室」や「まちなかカレッジ」等、地域を伝える取り組みに重点的に関与。

【連携・支援活動】
穂高七夕
案内人の教室
穂高ハロウィン
ふるさとさんぽ2019秋
安曇野まちなかカレッジ
穂高あめ市 等



天蚕の恵みと新屋の屋敷林

認定2019-1

天蚕からの富が生み出した『豊かな集落』

新屋一帯は、中房川の扇状地の水利条件の悪い土地でしたので、近世以降の用水整備等に伴い集落が成立してきました。しかし、明治に入ると周辺の村々と有明村を構成し、その中心地となりました。この急激な発展を支えたのが、荒れた土地に自生するクヌギを餌にする蛾の繭からの『天蚕糸』がもたらした富でした。この富は住まいの形を変え、暮らしを豊かにし、山麓の観光開発にもつながっていました。

協定団体：屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト



項目	内容
環境の土台 田園	○礫が多く、稲作に不向きな中房川扇状地の扇央部 ○「砂地・凍み・乾燥」の3条件が整う天蚕に適した環境
物語と 構成要素	○「やまこ」で生まれた富で立派な住まいへ変化 ・明治中頃には有明村3000haから年間800万粒の天蚕繭を生産 ・約90のカマ(線系所)があり、天蚕から柞蚕、家蚕で豊かなくらしへ ・住宅建築も変化(かやぶきから本棟造へ) ○防風を主目的に植えられた木々が年月を経て屋敷を囲む森に ・かやぶき屋根材の飛散防止のための防風機能 ・曽根原家住宅は国内最古の本棟造系統の民家 ・ヤマからヒノキ、クリ等を植樹した屋敷林と本棟造の集落 ○有明の中心地への発展・山麓の観光産業にも寄与 ・村の中心として栄えた歴史を伝える新屋公民館 ・中房地籍から穂高温泉郷への引湯 (長野から移築した鐘の鳴る丘集会所)
産業の関 係・課題等	○天蚕の振興 ○文化財の維持保全・活用 ○屋敷林の役割の変化と後継者不足
市民活動等 の内容	○市民団体による文化財の活用 ・やまこの学校(鐘の鳴る丘集会所) ・安曇野スタイル(曽根原家住宅)

烏川扇状地と西山山麓の里山文化

認定2019-2

烏川の扇頂部の地形を生かして育まれてきた暮らしの知恵と様々な恵み

烏川谷の出口一帯は、山からの水と森からの恵みを楽しむことができる場所ですが、扇頂部で礫も多く水温も低く地形も複雑なため、安定した稲作には工夫が必要な土地でした。長い年月をかけて先人たちが編み出してきた利水の工夫・苦勞の痕跡や山からの恵みも活かした文化、技術などが生まれ、常念岳を背景に全国にも誇れる里山環境が保たれています。

協定団体：岩原の自然と文化を守り育てる会



項目	内容
環境の土台 里山	○烏川水系の扇状地・扇頂部(冷たい水、礫が多い土壌) ○常念岳・山麓の里山
物語と 構成要素	○安曇平の水田の聖地 ・1000年以上前の古墳群 ○先人たちのつくりあげた様々な『水』に支えられている暮らし ・烏川の水の分け口(五力堰、岩原堰等) ・山の水はため池としても活用(白池堤等) ・「どんぶら」「ぬるめ」を設け水をあたためて利用する稲作 ○時の有力者も目を付けた土地自然 ・戦国時代の堀金氏の山城となった岩原城 ・大庄屋山口家(烏川の水、西山との結び付き) ○『ヤマ』からの恵みを活かす里山環境・半自然環境 ・傾斜地の棚田の畔の多様な野草(オオルリシジミの繁殖地) ・烏川の上流には採草場・牧場・山仕事の守り神の山神社 ・風穴による蚕種の保存・くれ木の産地・石灰石の産出
産業の関係・ 課題等	○生業のなかで育まれてきた文化・技術等の継承が課題 ○国営公園や地元の団体等が連携して地域づくりを推進
市民活動等 の内容	○岩原の自然と文化を守り育てる会 ○塚原地域づくり振興会 ○国営アルプスあづみの公園との連携活動 (さとやま楽校・やまこの学校・クラフトゲート匠の森)

多様な水系とわさび田湧水群

認定2020-1

北アルプス由来の水が集結して育んだ緑豊かな環境と多様な恵み

北アルプスから流れ出る多くの水系は明科地域と穂高地域の境界で合流します。この一帯は、複合扇状地の扇端部にあたり、大量の湧水をはぐくむ一方で、地下水位の高い広大な氾濫原で、水田耕作は困難な条件でした。先人たちは、この豊かな水と独特な地形条件のもとで、わさび、にじます等の安曇野の名産とともに全国に誇れる緑豊かな水辺景観を生み出してきました。



協定団体：三角島ふるさとの森プロジェクト

項目	内容
環境の土台 田園	○多数の川が合流してできた広大な氾濫原 ○年代の異なる3つの地質の境界 ○複合扇状地の扇端部・豊かな湧水
ストーリー と構成要素	○複数の水系が支えるわさび田群 有明砂系統の水系由来＝白い土壌 烏川水系由来＝黒い土壌 ○わさびの生産を支えるしくみ わさび山、栽培田、排水の3要素で構成 水温・水量の管理・コントロール技術 通年収穫のための日陰確保(ニセアカシア植栽) ○ニジマスの生産環境 ニジマス等信州の淡水魚生産の重要拠点 ○清冽な水と豊かな緑の環境 こどもの遊び場・映画撮影・三角島・名水百選等
産業の関 係・課題等	○わさび田と養魚場を中心とした産業を持続 ○観光産業が集積(大王わさび農場 安曇野汽船他)、様々な主体が関与 ○水を活かしてクリアポート、ラフティング等の体験 ○湧水の湧水、わさび田の耕作放棄の進行・特定外来生物の増加
市民活動の 内容、人材・ つながり	○三角島ふるさとの森プロジェクト ・スケッチ大会 ・自然観察会 アレチウリ駆除 ・国土交通省 手づくり郷土賞受賞 ○あづみ野ロータリークラブ ○ココブラ信州実行委員会

安曇野ふるさと遺産 2018～2020

